

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換の概要
(ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表及び
意見交換会と同時開催)

1 好事例発表及び意見交換会概要

- (1) 日 時：平成 29 年 10 月 26 日（木）14：00～16：00
- (2) 場 所：ホテルアバローム紀の国 4階 羽衣の間
- (3) 事例発表者：(株) 中口板金工作所 設計・技術部 設計担当 中村 吏菜 氏
和歌山県立田辺工業高校 機械科教諭 阪本 貴弘 氏
- (4) 意見交換
有識者（コーディネーター）：(国) 和歌山大学 特任教授 寺本東吾 氏
参加者：8社9名 1校1名
- (5) 聴衆者：聴衆に参加いただいた人数 4名

2 好事例発表内容

技能伝承に取り組む企業の好事例発表

- (株) 中口板金工作所 設計・技術部 設計担当 中村 吏菜 氏
「インターンシップ実施により若手人材を確保し技能の伝承を行う」
- ・女性の働きやすい環境を整備し、女性の活用を進める。
 - ・技能検定取得を進め昇給や賞与で企業として配慮しながら技能向上に楽しんでやってもらう。
 - ・インターンシップを積極的に受け入れし、実習を通して作業の面白さや興味を持ってもらう、ものづくりの楽しさを伝えていくことで、将来の技能者を育てる。

ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表

- 和歌山県立田辺工業高校 機械科教諭 阪本 貴弘 氏
「先端情報技術機器を活用した技能伝承の可能性を探る」
- ・高度な技能を習得するために、経験や勘に頼ることが多く、技能習得には多くの時間がかかる。
 - ・情報技術機器を活用し技能を「見える化」することで、効率的に技能習得を図ることは可能である。

3 意見交換の主な意見

(1) 現状と課題

- ・技能伝承については、職人が減っていくという悩みがある。さらに若い人に継続して従事してもらうことが難しい。
- ・職務に必要な資格は取得できても、技能検定などは業務に余裕がないため取り組めず技能伝承に繋がらない。作業手順書程度は文書化されているが、それだけでは技能伝承は進まない。
- ・社内で技能伝承ができているかという悩みはある。技能を伝承し、多能化につ

いて取組みたいが、業務量や人手不足もあって、人のローテーションが進まないことがネック。

- ・企業の現場でも IT 化を進めたいという思いはあるが、なかなか進まない。
- ・ものづくりの仕組みを、技能を、見える化したい。生産性向上に役立てたいが、今はできていない。
- ・IT での取り組みに事例があれば知りたい。

(2) 実施についての進め方等

- ・女性に合った職種で技能を伝える取り組みを進め、職人の減少をカバーしたい。
- ・インターンシップの受け入れ等、息の長い取り組みが必要かと。ものづくりの仕事に就いてもらえるような環境を整え、小学校等に声掛けし将来のものづくりの人材を育成したい。
- ・資格取得等に対して、給料を上げるなどしていかないと。また、技能向上に楽しんで取組めるようなしくみを作っていくたい。
- ・加工業だが、パソコンで出来ることはパソコンで行っている。組立て作業は出来ていないが、検査は自動検査でやらしてる。生産ラインはリアルタイムで分かるようにしている。生産性の向上…事例と言える。
- ・今はまだ人手に頼っているところがあるが、技能伝承は機械化 (IT 化) できる。学校にお願いになるが企業の人材確保のために、工業系の人材を育てていただきたい。
- ・新入社員教育も、同業者になればライバルということもあるが、共通ベースに乗った集合教育ということもありうるのかと思う。

(3) その他

- ・これからのものづくりには、女性の進出は欠かせない。学校でも女性が旋盤やフライス盤に挑戦している。
- ・技能伝承で現場は活字離れもあって、文書ではなかなか進まない。スマホ等で映像を見せるというやり方はいいと思った。

参考

【参加企業の技能伝承への取組み状況】

見える化を図っている = 3 社

OJT 実施企業 = 全社

OFF-JT 実施企業 = 1 社

資格認定制度で評価 = 6 社

職能給等で評価 = 3 社

ものづくりマイスターの活用 = 2 社

インターンシップで人材を確保して伝承 = 1 社